

第7回RIETIハイライトセミナー 2014年2月3日
グローバル化のもとでの地域経済の発展—「空洞化」を超えて

グローバル化と人口減少・高齢化の下で すべての「地域」が輝く未来に向けて

藤田昌久：RIETI・甲南大学・京都大学

1. はじめに

2014年1月24日 安倍首相の施政方針演説

- I. “さて今年は、**地方の活性化**が、安倍内閣にとっての**最重要テーマ**です。地方が持つ大いなる「可能性」を开花させてまいります”

すべての「地域」が輝く未来を創る

- II. “**全ての女性が活躍できる社会を創る**。これは、安倍内閣の**成長戦略の中核**です”

全員が主役となれる社会を創る

I と II は、双対（表裏一体）

日本経済社会の革新に向けた長期戦略の必要性

デール・ジョルゲンソン／ハーバード大学教授／日本経済新聞「経済教室」2014年1月8日
step 1: 抽象的な構想 → step 2: 課題と問題の見極め → step 3: 具体的な政策の実施

三つの視点からの長期戦略(ODS戦略)

1. 世界に開く(Open)
2. 多様性の促進(Diversity)
3. 「賢い集約」のもとにおける連携(Smart Shrinking and Sharing)

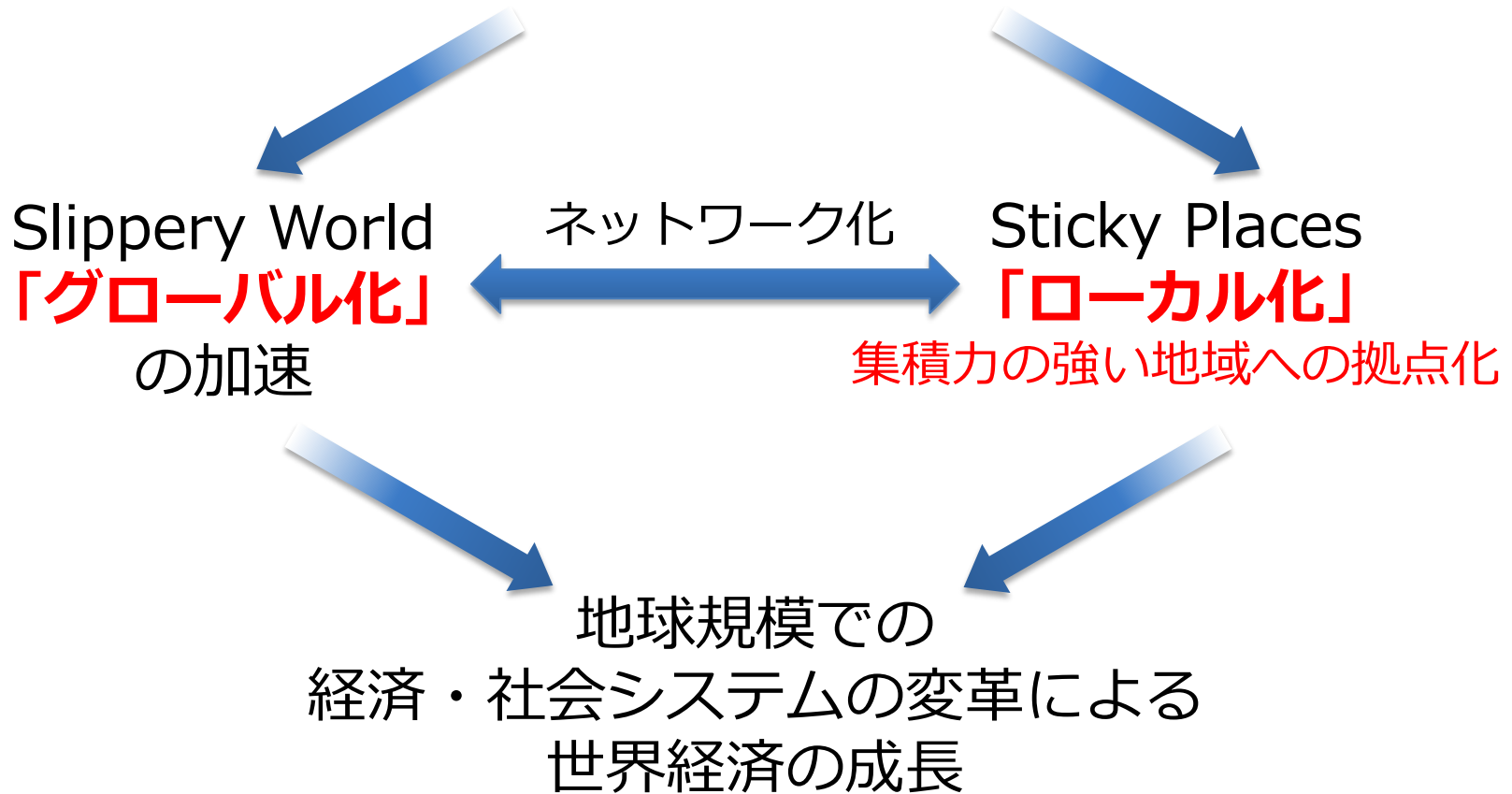
ODS戦略を日本の経済社会システムのあらゆるレベルで実現していく

- 国土・地域システム
- 企業組織・産業構造
- 貿易・投資・サプライチェーン
- 科学技術開発・イノベーション・人材育成・教育

2. 新たな発展を目指して果敢に挑戦しよう

20世紀末より「グローバル化」と「ローカル化」の同時進行

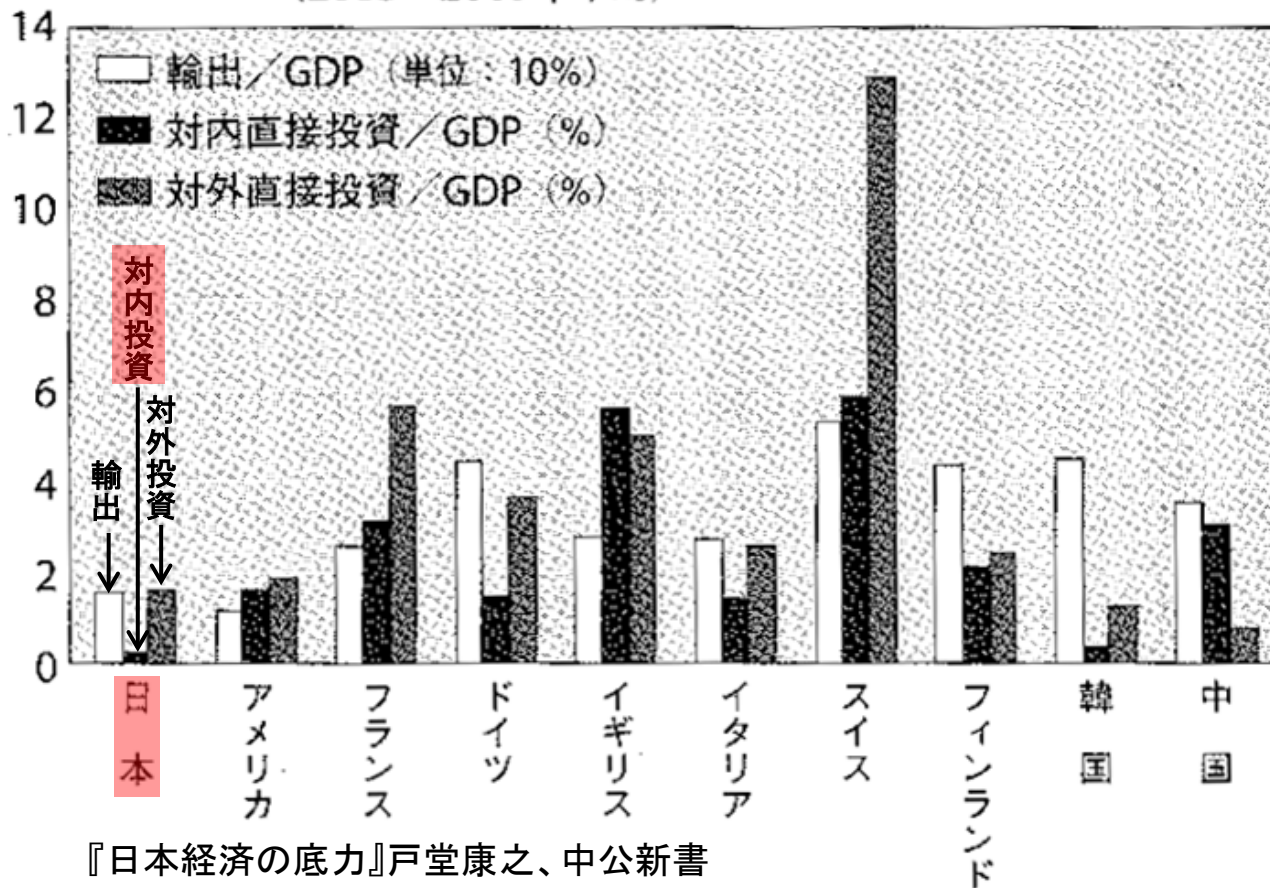
輸送技術と情報通信技術（ICT）の飛躍的発達



しかし日本は「グローバル化」も「ローカル化」も中途半端

グローバル化の低い日本

(2005~2009年平均)



『日本経済の底力』戸堂康之、中公新書

(注) 2010年の輸出対GDP比 = 15.2%: 集計可能な147カ国・地域のうち第137位

もっと「グローバル化」を進めて世界の成長を取り込もう
そのためにも「ローカル化」を進めて豊かな地域力を育てよう

人口規模の縮小は経済の衰退をもたらす運命に？ では、先進国で成長している国は？

OECD諸国の一人当たり国内総生産(名目GDP)(米ドル表示)

順位	国名	1993	順位	国名	2002	順位	国名	2006	順位	国名	2008
1	日本	35,008	1	ルクセンブルク	50,444	1	ルクセンブルク	79,565	1	ルクセンブルク	117,967
2	スイス	34,698	2	ノルウェー	41,824	2	ノルウェー	63,961	2	ノルウェー	94,763
3	ルクセンブルク	34,697	3	スイス	38,308	3	アイスランド	55,517	3	スイス	64,885
4	ノルウェー	27,147	4	アメリカ	35,945	4	スイス	50,469	4	デンマーク	62,054
5	デンマーク	27,101	5	デンマーク	32,323	5	アイルランド	48,289	5	アイルランド	59,944
6	アメリカ	25,374	6	アイルランド	31,120	6	デンマーク	47,716	6	オランダ	53,094
7	ドイツ	24,691	7	日本	30,837	7	アメリカ	41,574	7	アイスランド	52,568
8	オーストリア	23,983	8	アイスランド	30,345	8	スウェーデン	39,535	8	スウェーデン	51,954
9	スウェーデン	22,944	9	スウェーデン	27,279	9	オランダ	38,577	9	フィンランド	50,931
10	アイスランド	22,786	10	オランダ	27,243	10	イギリス	37,310	10	オーストリア	49,527
11	オランダ	22,112	11	イギリス	26,605	11	フィンランド	37,276	11	オーストラリア	48,049
12	ベルギー	21,993	12	フィンランド	26,008	12	オーストリア	37,216	12	アメリカ	47,186
13	フランス	21,897	13	オーストラリア	25,560	13	オーストラリア	36,592	13	ベルギー	47,151
14	カナダ	19,340	14	ドイツ	24,446	14	日本	35,650	14	カナダ	44,950
15	オーストラリア	17,609	15	フランス	24,388	15	ベルギー	35,585	15	フランス	44,550
16	イタリア	17,413	16	ベルギー	24,305	16	フランス	35,150	16	ドイツ	44,519
17	フィンランド	17,229	17	カナダ	23,465	17	カナダ	35,073	17	イギリス	43,237
18	イギリス	16,675	18	オーストラリア	21,768	18	ドイツ	33,703	18	イタリア	38,455
19	アイルランド	14,234	19	イタリア	21,061	19	イタリア	30,341	19	日本	38,371
20	スペイン	12,986	20	スペイン	16,494	20	ニュージーランド	27,146	20	スペイン	34,971
21	ニュージーランド	12,315	21	ニュージーランド	15,513	21	スペイン	26,150	21	ギリシャ	31,174
22	ギリシャ	8,851	22	ポルトガル	12,343	22	ギリシャ	20,252	22	ニュージーランド	29,693
23	ポルトガル	8,649	23	ギリシャ	12,217	23	ポルトガル	17,474	23	ポルトガル	22,929
24	韓国	8,194	24	韓国	11,570	24	韓国	16,470	24	チェコ	20,719
25	メキシコ	4,592	25	チェコ	7,346	25	チェコ	12,133	25	韓国	19,115

OECDにおける1人当たりGDPの上位10カ国(2008年)

1. すべて北欧に位置する小さな国々
2. 10カ国総人口：6300万人（日本の約半分）
1カ国平均：630万人（vs. 九州1330万人、北海道550万人）
→知識創造社会の一員として発展していく上で、**人口規模はあまり必要ない**
3. それぞれの国は**独立国**として、固有の言語と文化、独自の産業集積と経済・社会・教育政策を持ち、全体として**多様性に富んだ知識創造社会**を形成している。
例：フィンランド：人口526万人、5つの州より成る共和国。普通の大学卒の人は5ヶ国語（公用語のフィンランド語とスウェーデン語、さらにロシア語、ドイツ語、英語）に通じている。
4. それぞれの国の安全保障は、ヨーロッパの一員として全体としてNATOに守られている。

ならば、日本も安全保障をしっかりとするとともに、
強い地域力（産業集積・イノベーション力）を持つ多様な地域を育て、あたかも「独立国」の連合体として発展

長寿化・高齢化で経済社会は衰退する運命に？

高齢者

大きな潜在的な需要者

- 高齢者向けの住宅・消費財・サービス
- 医療・介護サービス
- 医療・介護機器産業
- 住・遊・医・知・参の揃ったリゾート開発

大きな潜在的な資源

- 人的資源
- 金融資源

➡ 地域を中心とする全員参加のイノベーションにより、世界をリードする高齢化社会の創造を

3. 「空洞化」議論を超えて：**世界は大きく成長、世界は近い**

東アジア：密なサプライチェーンのネットワークで結ばれた
「世界の製造拠点」と「巨大な消費市場」として大きく成長



我が国の製造業就業者数の最近の推移

2002年 1,202万人 → 2012年 1,032万人 : 外国直接投資による「空洞化」？
: 「ボーモル病」の結果？

製造業の空洞化に関する日本における学術研究のまとめ

- RIETIフェローコンテンツ 国際貿易と貿易政策研究メモ 第17回 田中鮎夢, 2013年, 「製造業の空洞化:外国直接投資によって国内雇用は減少するのか」
- Yamashita, N. and K. Fukao, 2010, Expansion Abroad and Jobs at Home: Evidence from Japanese Multinational Enterprises, *Japan and the World Economy* 22 (2)
- RIETI DP No. 07-E-006, 2007年, Hizen, A., T. Inui and Y. Todo, The Effects of Multinational Production on Domestic Performance: Evidence from Japanese Firms
- RIETI DP No. 12-E-069, 2012年, Tanaka, N., The Effects of FDI on Domestic Employment and Workforce Composition
- RIETI DP, 2014年2月予定, Ito, K. and A. Tanaka, The Impact of Buyers' Overseas Expansion on Domestic Suppliers' Employment: New Evidence from the Firm-Level Transaction Relationship Data

質問の設定の仕方を変えよう

Q: 外国直接投資は国内雇用の減少をもたらすか否か



- Q: • 世界の成長を取り込みつつ、我が国全体における生産性向上・雇用拡大に結び付けるには、いかなるグローバル・サプライチェーン／バリューチェーンを構築すべきか。
- その中で、どのようにして、**独自の地域力**を持つ多様な地域を育成し、国内外で連携を図っていくか。

「輸送費」の低減とICTの発展の影響

世界システム変革のエンジン

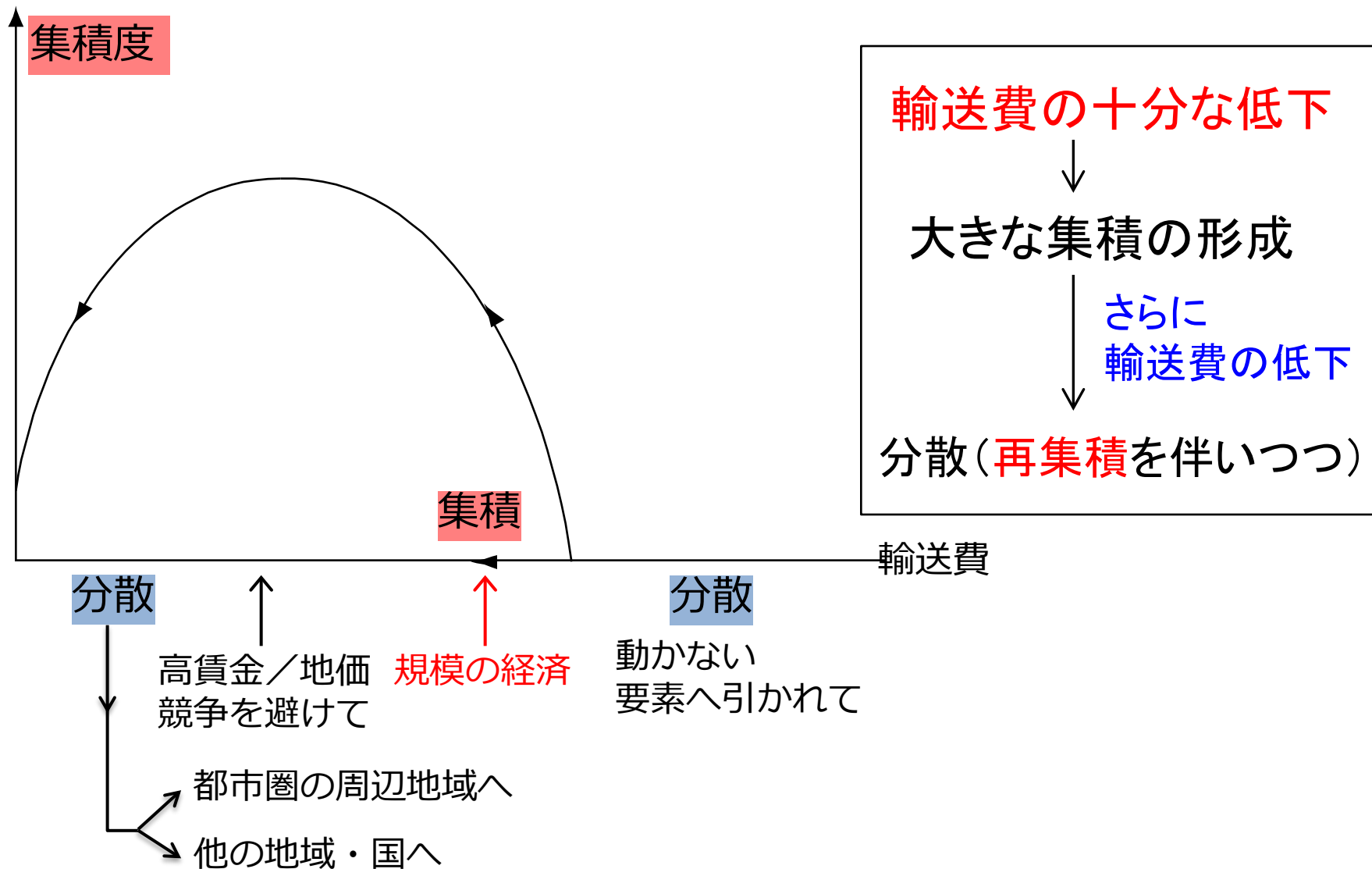
II

物・人・金・情報の広い意味での「輸送費」の低減

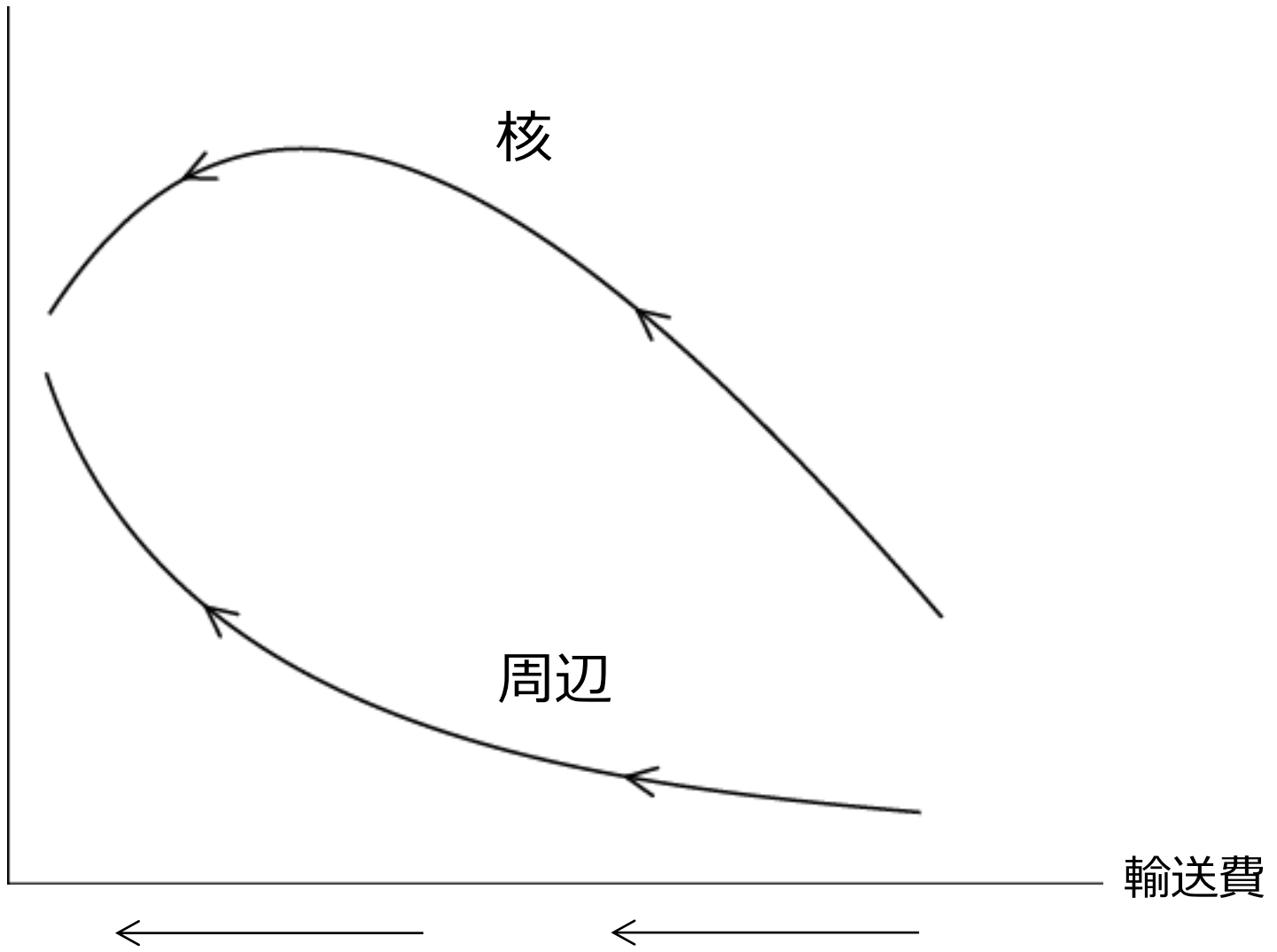
交通・ICTの発展 → 先進国の産業集積や都市は
衰退する運命にあるのか？

「輸送費」低減の逆U字型効果

輸送費低減の集積への逆U字型の効果

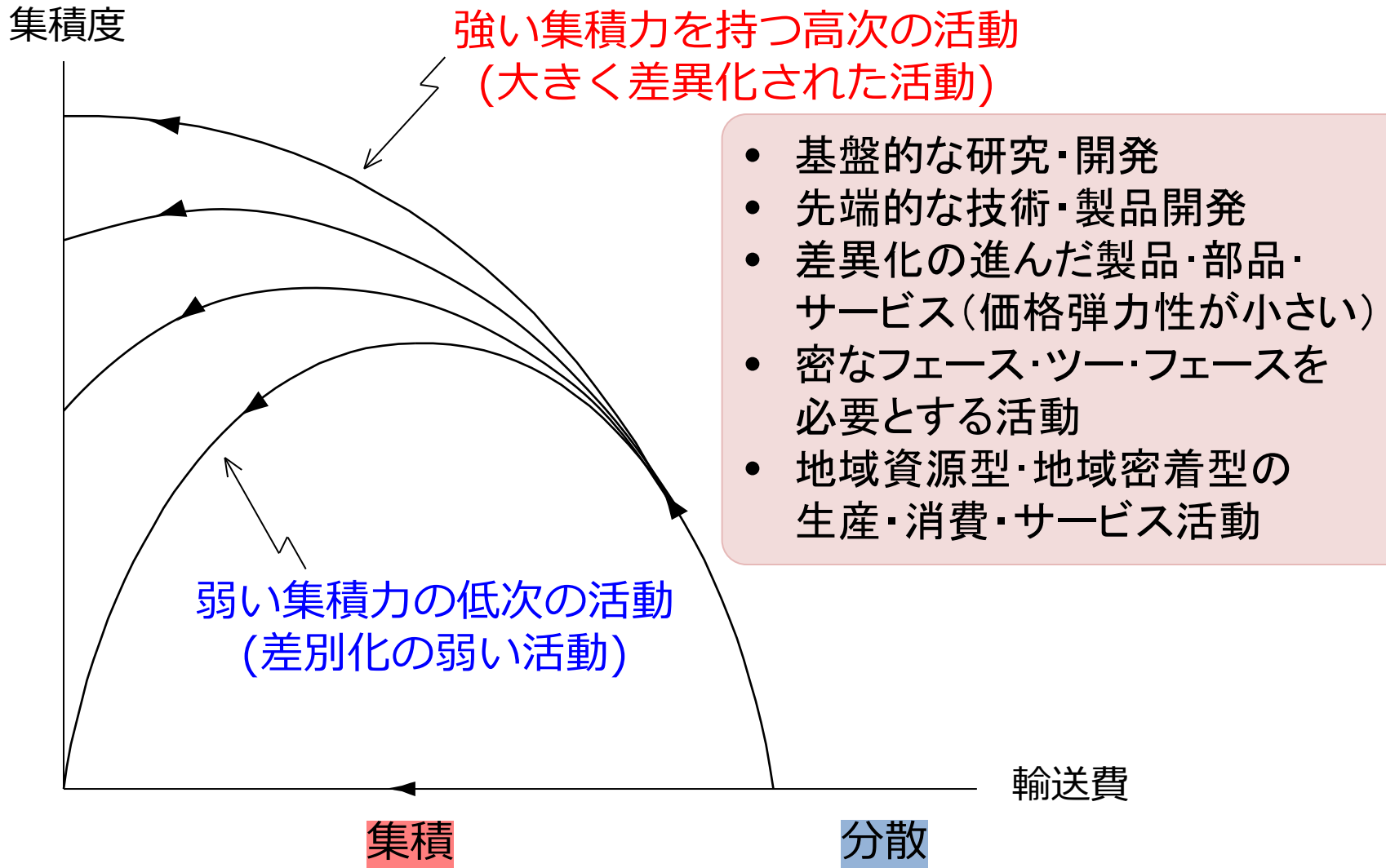


「核」・「周辺地域」の実質賃金



ただし、以上は同一種類の生産活動を前提

活動の種類により、集積力は異なる



大きく差異化された活動に「賢く集約」して、集積力を強めよう 15

「良い海外進出」で果敢にグローバル化を進めよう

I. 「良い海外進出」 ➡ 国内の生産性向上・雇用拡大

- 世界で勝つために出て行く(イチロー型)
生産拠点、市場開拓、現地R&D
- 同時に、日本での現場力(研究・技術・商品開発、先端的工場、マーケティング力)を一層強くし、関連企業との絆を深め、地域集積力を強める(Sticky Placeになる)
- グローバルなサプライチェーン／バリューチェーンとロジスティック戦略を通じて、海外と国内で有効な補完関係を築く

II. 「悪い海外進出」 ➡ 空洞化

- 日本では生き残れないから、補助金が出るので、出て行ってみる

海外市場開拓における三つの方式

1. **AKB方式**: **大きな自地域市場 (Home Market)** に立脚して市場競争力を強め、海外市場開拓は自国市場の延長として

例: 最近までの自動車・電機を中心とする日本の製造業、J-POPビジネス、クール産業、和食レストラン

2. **K-POP方式**: (小さな) 自国市場に依存しないで、**最初から海外展開を (北欧方式) を狙う**。そのために、差異化を通じてブランド力を強化しつつ、広い意味での「**輸送費**」を下げるための投資を行う。

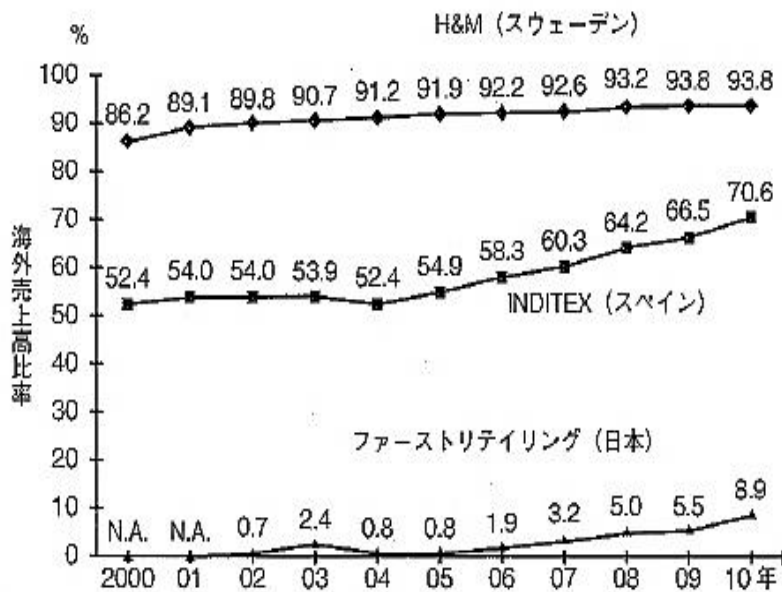
例: K-POPビジネス (韓国の音楽市場の規模は日本の1/22)、北欧や韓国や京都の有名なIT関連の製造企業

3. **Disney方式**: **ユニバーサル・コンセプト (夢、あこがれ、わくわく感)** を商品化して、世界市場を開拓

例: ディズニー・ランドやアニメ映画、米国のチェーン店 (ホテル、マクドナルドやスターバックス)、ヨーロッパのHigh-Fashion・ブランドビジネス、ドイツやイタリアの高級車、90年代までのソニー、米国のインターネットビジネス、アップルのiPhone・iPad等

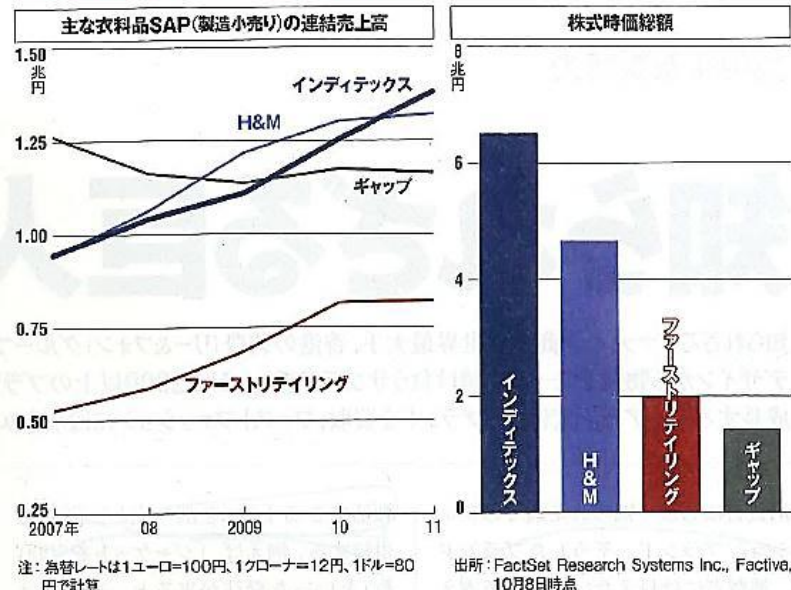
ファストファッション産業における三つの国際ビジネス・モデル

2010年	連結売上高	営業利益率	(2009年)世界店舗数	海外売上比率	サプライチェーン
H&M (スウェーデン)	1兆4,100億円	22.7%	1988店舗 (35カ国)	93.8% (欧州約7割)	約20カ国 協力工場約800社
ファーストリテイリング	8,148億円	16.2%	934店舗 (国内842, 海外136)	8.9%	商品全体の 85% を中国で生産委託
インディテックス (Zaraを中心にもつ。 スペイン、ラ・コルニャ に本社)	一兆3,800億円 (2011年)	18%	5,693店舗 (85カ国、日本82店舗)	75% (スペインを除く 欧州45%)	ラ・コルニャの本社周辺の 工場を中心として、 約半分を スペインで生産



出所: 安積敏政『サービス産業のアジア成長戦略』2011年

売上高、時価総額ともに世界トップに



出所: 日経ビジネス 2012・11・5月号 特集ファーストファッション

世界の大きな流れに対応したサプライチェーンの再構築を

1. 従来までのサプライチェーンは日本市場の延長として、主として先進国を最終市場として構築されてきた
AKB方式中心（グローバル化の第1ステップ）
2. 生産・消費における成長の中心は新興国へ移りつつある
AKB方式とK-POP方式とDisney方式の組み合わせで新興国の成長をも日本の成長に取り込む（グローバル化の第2ステップ）
3. 新興国の地方では、戦後のナショナル・ショップ方式も

強いブランド力を持つ企業・産業は、豊かな地域力(独自の文化・産業集積)を土壌に持つ

- アップルやグーグルはシリコンバレー(米国)の企業
- ディズニーはロサンゼルス(米国)の企業
- ベンツやBMWはバイエルン(ドイツ)の企業
- ノキアはフィンランドの企業
- H&MやIKEAはスウェーデンの企業
- インディテックス(ザラ)はラ・コルーニャ(スペイン)の企業
- エルメスやルイヴィトンはフランスの企業
- サムソンや現代は韓国の企業
- トヨタは三河出身の企業、コマツは石川県出身の企業
- 京セラ・ローム・オムロン・村田製作所・堀場製作所・日本電産は京都の企業
- ソニーは東京、パナソニックは大阪出身

豊かな地域力（独自の文化・産業集積）を育てよう

4. 「廃央創域」により、多様な「輝く地域」を創ろう

明治維新における廃藩置県により生まれた 中央集権国家の功罪

功：全体として見れば欧米の工業化社会にキャッチアップする目的のためには良く機能した

罪：社会の多くの側面において**多様性と自律性が失われていった**

- 全国一律の義務教育、記憶中心の過酷な受験競争
→**個性・独創性をうばう**
- 中央による地方行政の従属化
→**地域の自律性をうばう**（例：日本と米国の教育行政の違い）
- 一極集中による東京の肥大化
→**共通知識の肥大化**（金太郎飴）

知識創造社会において多様性がなぜ重要か

知識創造社会における最も中心的な資源

- 個々の人材・**頭脳** (Brain Power)
(頭脳＝「使えば使うほど増える唯一の資源」)
- **多様な頭脳** (= **互いに差異化された知識を持つ人間・人材**) から生まれる相乗効果
(synergy)
- **多様な文化** (= **地域独自の知の蓄積**) から生まれる相乗効果

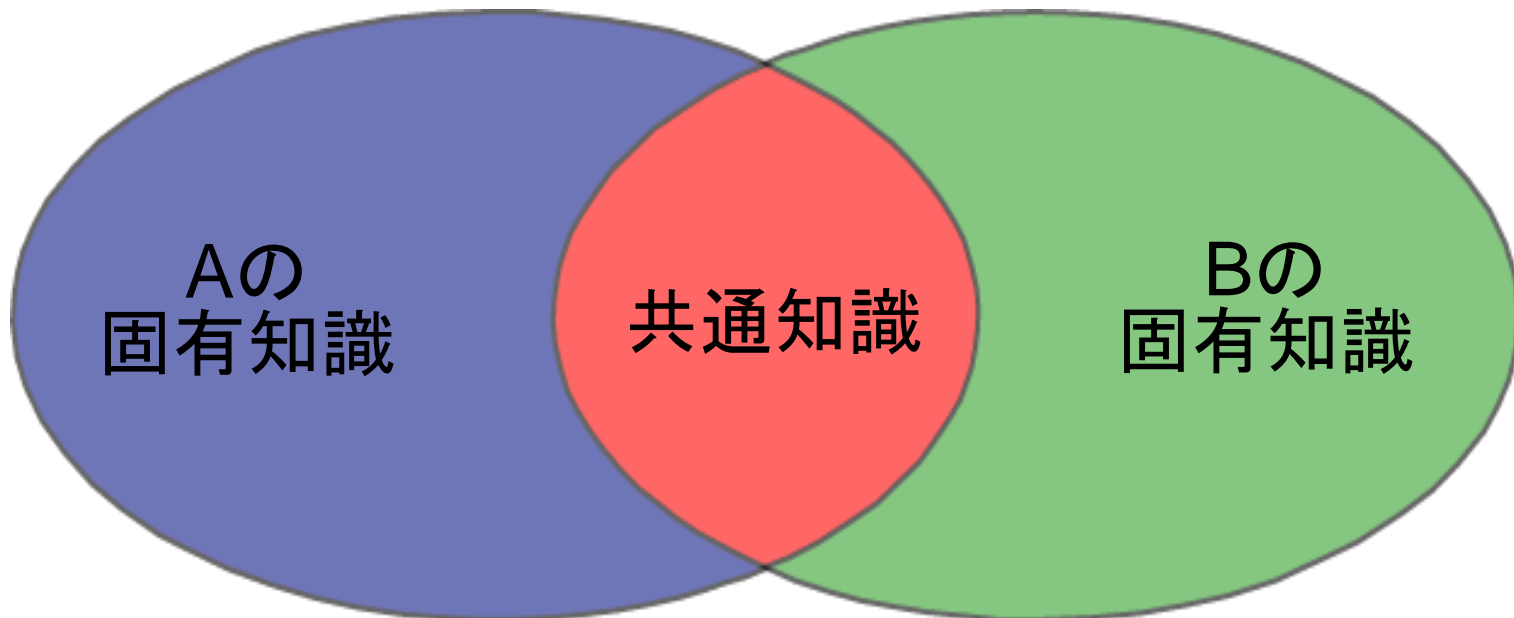
多様な頭脳の共同から生まれる 知識創造における相乗効果synergy

“三人寄れば文殊の智慧”



Aの知識の総体

Bの知識の総体

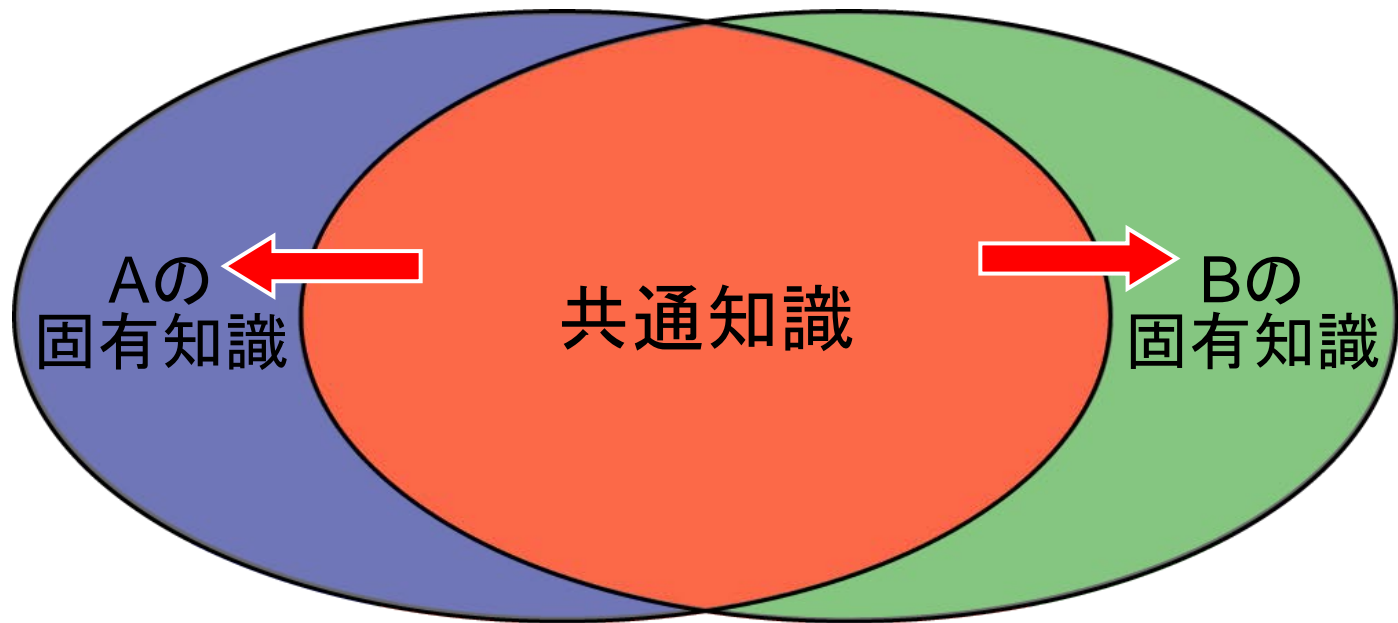


“三人寄れば文殊の智慧”

長期的にも本当か？

Aの知識の総体

Bの知識の総体



“三年寄ればただの智慧”

知識労働者の一極集中(と“nominication”)



二律背反の効果

正のロックイン効果

短期的

多様な人間の密な
コミュニケーションによる
Synergyの増大

負のロックイン効果

長期的

共通知識の肥大化
による多様性の減少
(金太郎飴)

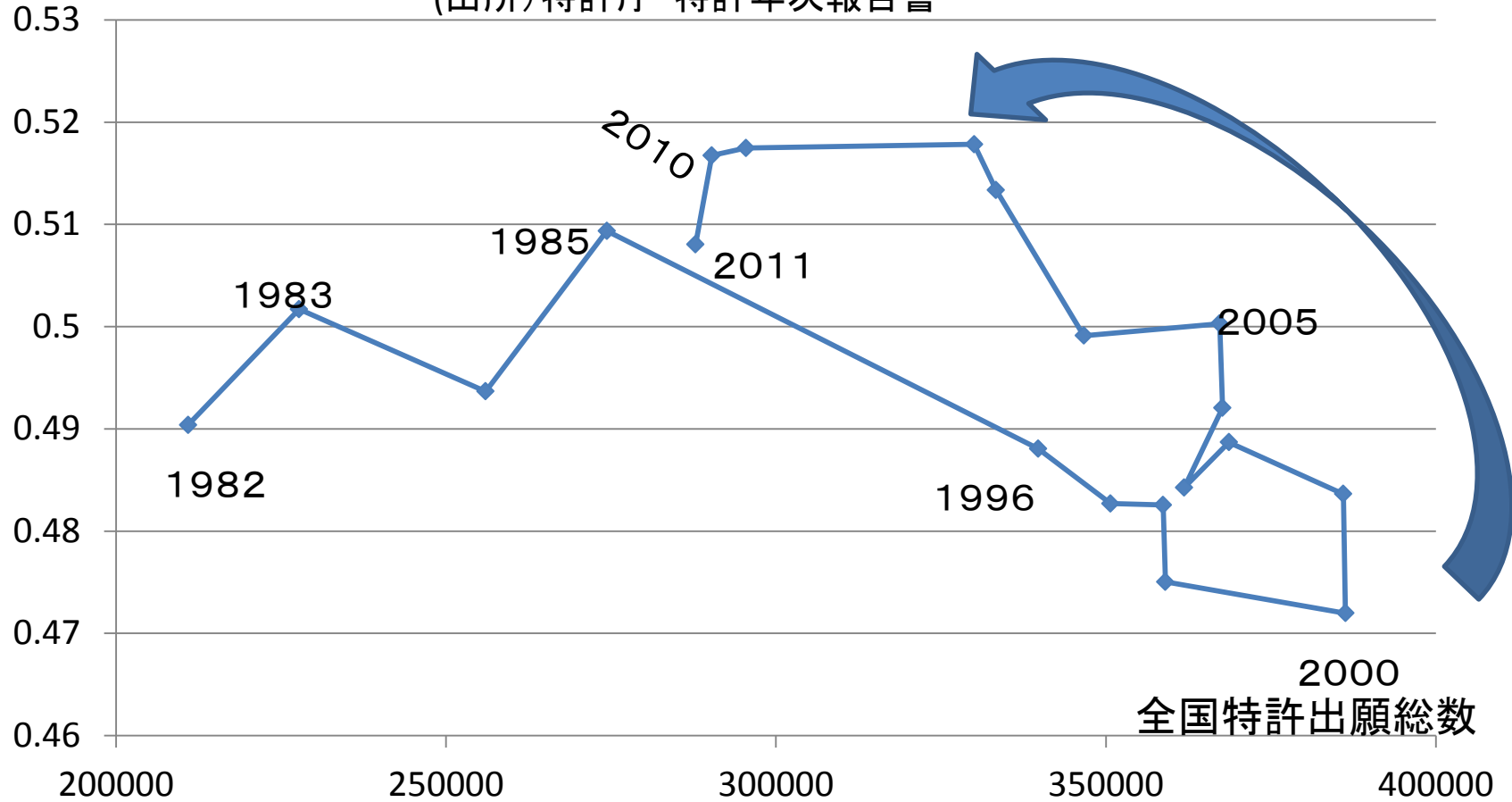
これを防ぐには

多様な地域の育成と、世界に開かれた知の交流と人材の流動

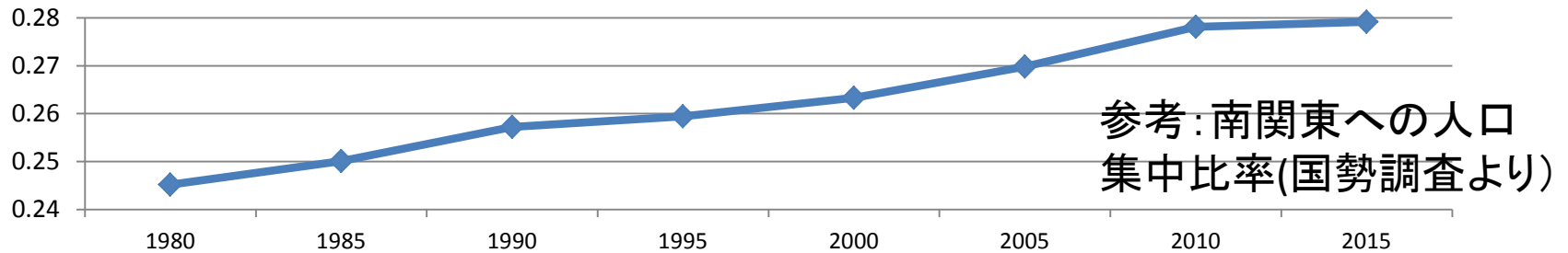
東京集中と特許出願件数

(出所) 特許庁・特許年次報告書

出願件数に占める東京のシェア



全国特許出願総数



参考: 南関東への人口
集中比率(国勢調査より)

「廃央創域」により、多様な地域の形成を

1. 基本的方向 ——

自律的な地方分権システムを
通じての競争と共生

2. 「廃央創域」

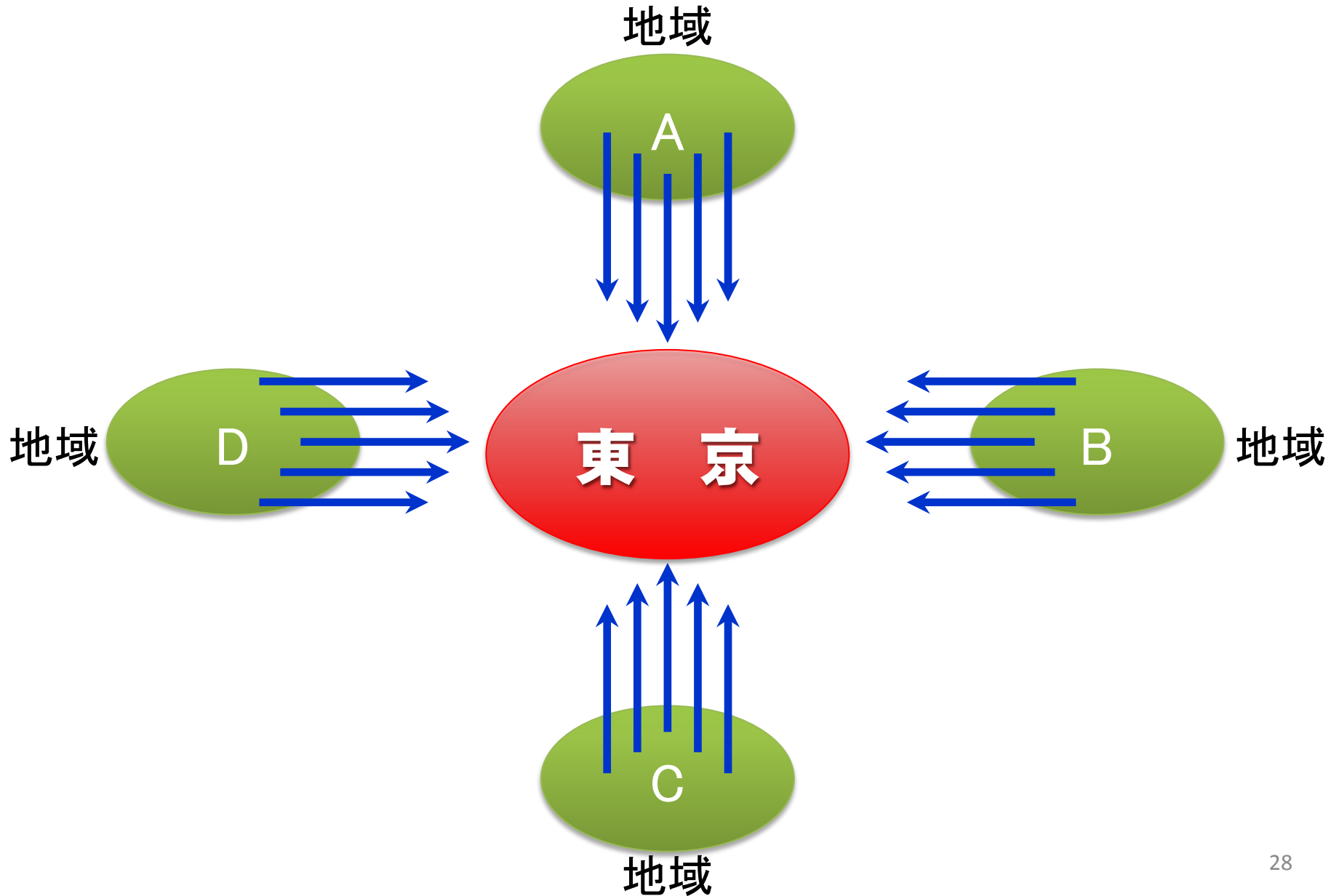
明治維新：廃藩置県

—————→ 中央集権国家

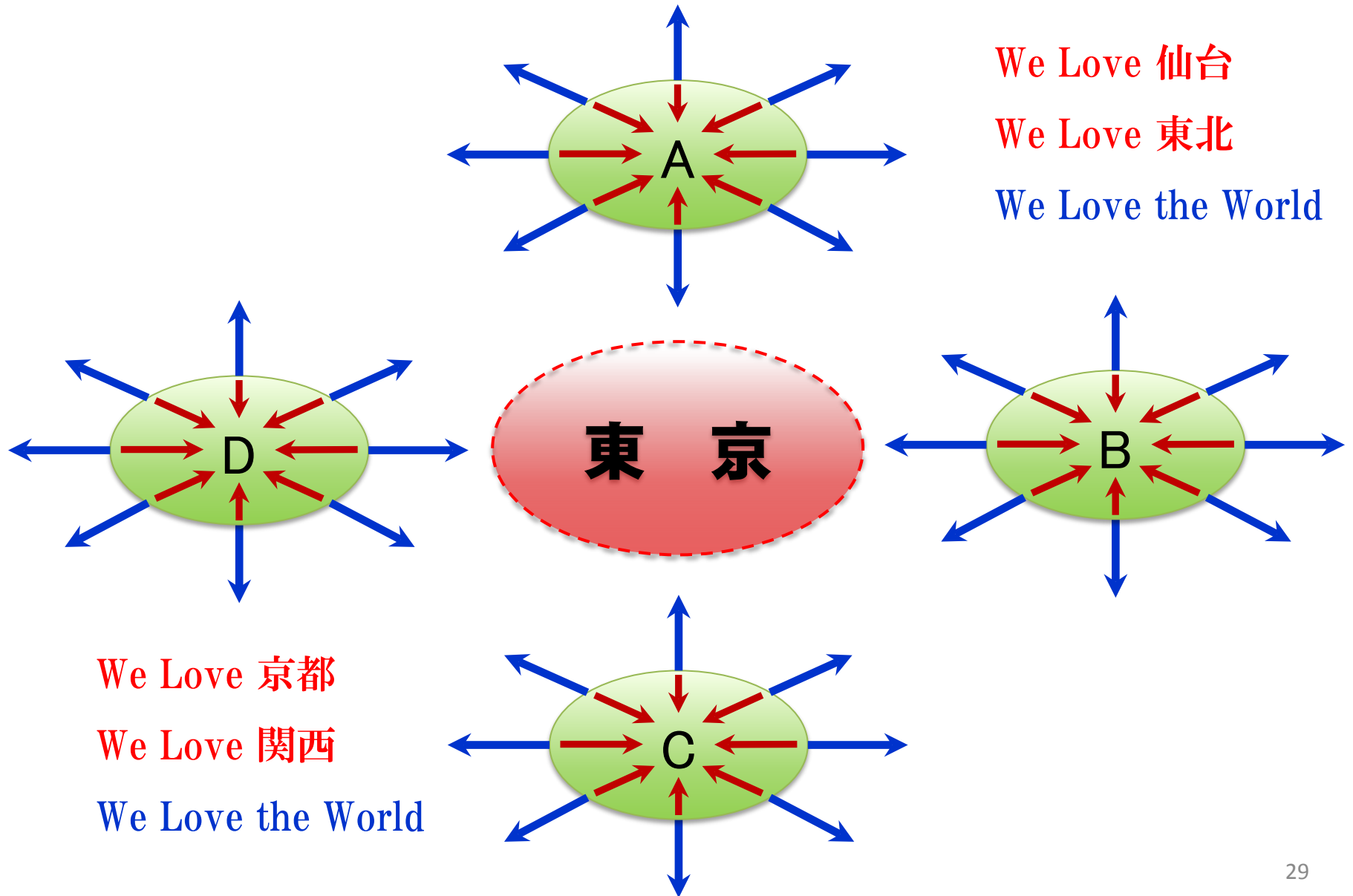
自律的な地方分権システム

←————— 廃央創域：平成維新

現在の一極集中の地域システム



ODS戦略により、多様な「輝く地域」の連合体へ



5. 全員参加のODS戦略により、多様な「輝く地域」を

“地方の活性化” ← 中央の目線

輝く地域を創る ← 座標軸の中心を自分の「地域」
に置く (釧路公立大学 小磯修二前学長)

- 「皇后美智子さまのうた3」 安藤光雄『週刊朝日』2014・1・24号

対馬より釜山の灯見ゆといへば
韓国の地の近きを思ふ

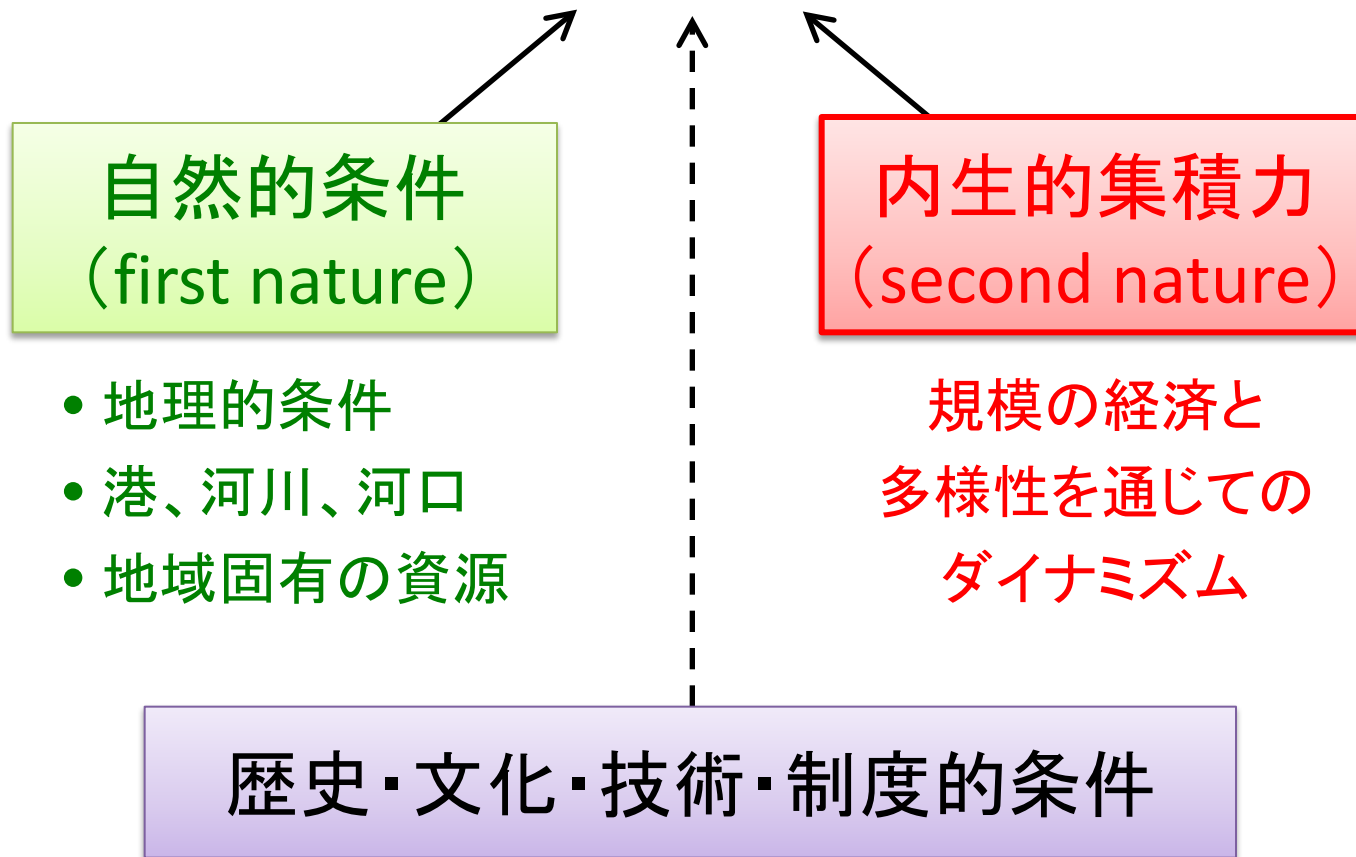
- 東国原英夫前宮崎県知事 2007年2月15日「オール野党」の県議会での
所信表明演説

「宮崎をどげんかせんといかん」

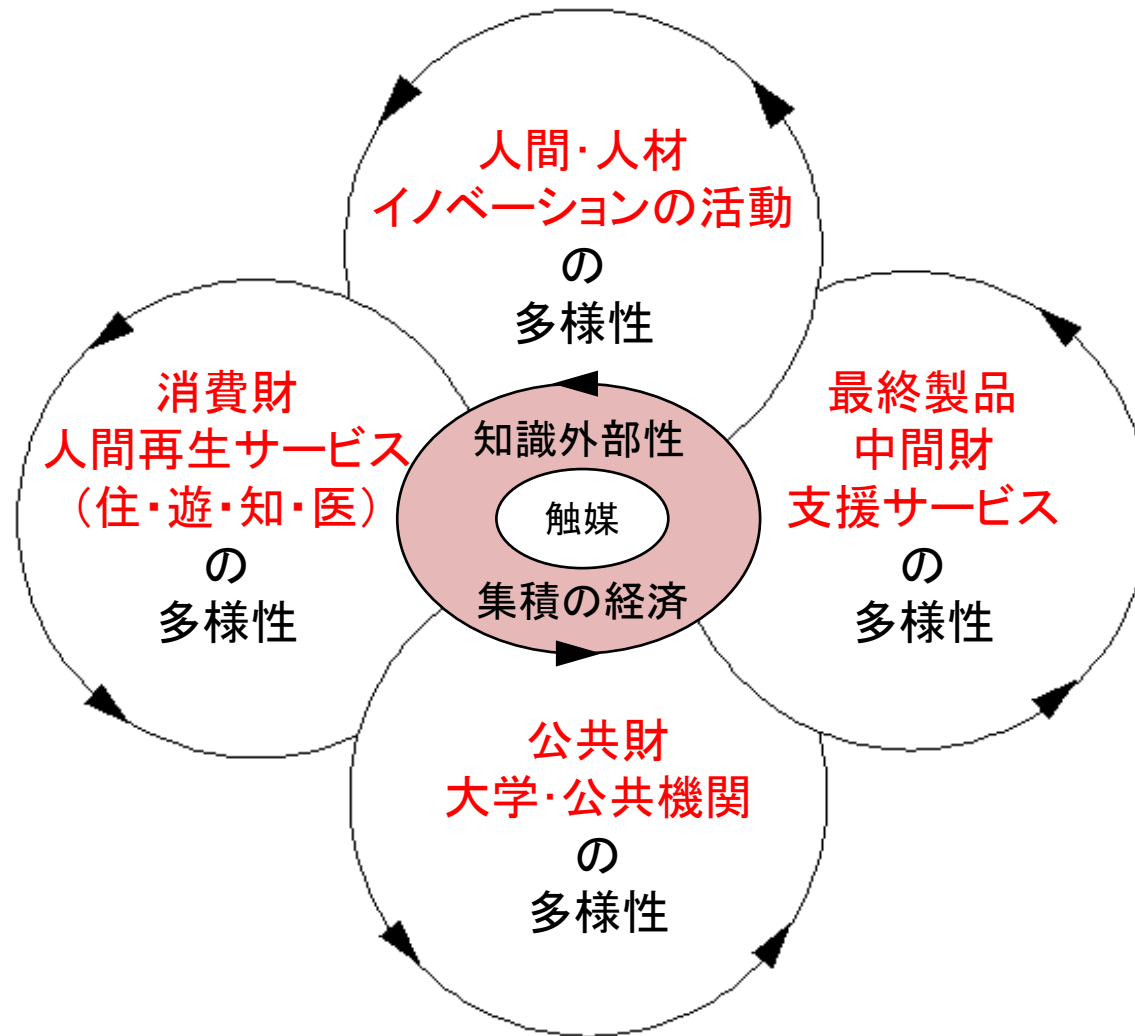
→宮崎再生・自律のための具体策を打ち出す

「地域」の競争優位を生む

集積力(魅力)

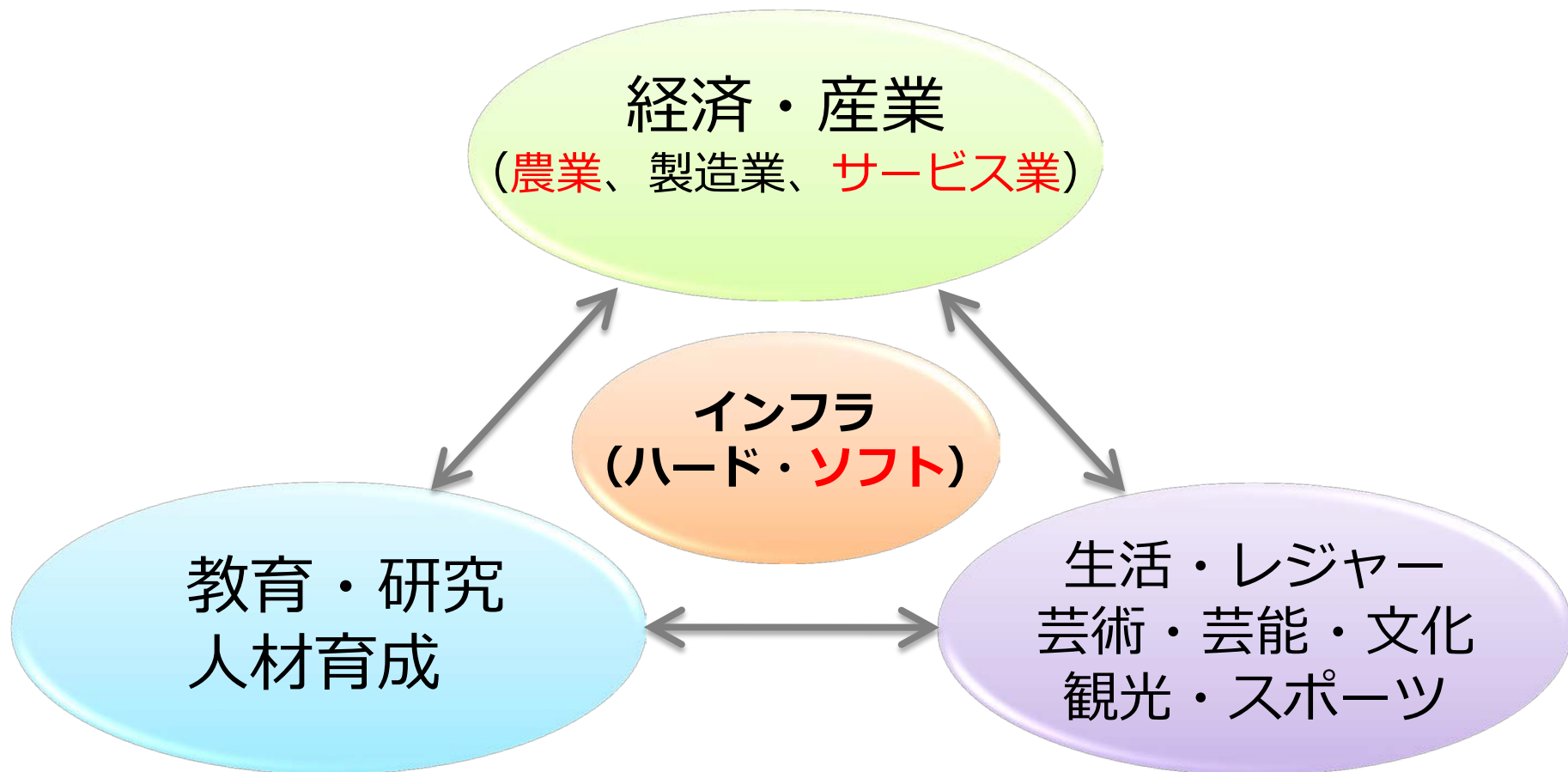


規模の経済と多様性を通じての 集積とイノベーションの場のダイナミズム



多様なアプローチで

全員参加による地域活性化



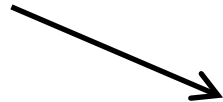
—Innovation Everywhere with Everybody—

地域活性化／地域政策の基本的考え方

(“地方が持つ大いなる「可能性」を开花させる” 安倍首相)

地域資源の最大限の
活用と持続的な育成

新しい血と知（人材と知識）
を恒常的に導入



住んでいる全員がわくわく楽しい
持続的なイノベーションの起こる
地域独自の「環境」と「仕組み作り」

“住する所なきを、先づ、花と知るべし” 世阿弥



支援

国／地方行政の政策

多様な地域が育つための国全体としての
「環境」と「仕組み作り」

地域資源とは？

“捨てればゴミ 生かせば資源”

(宇治市のゴミ収集車)



佐藤仁(東京大学、国際協力学):『サステナ』2007年2号:「見えないもの」を見る

- 資源をモノそれ自体ととらえる考え方からは、“自分の地域が発展しないのは、資源がないからだ”という言う訳が正当化されかねない。
- “資源の下地には、そこに「見えないもの」を見出して、「その先にあるもの」とつなごうとする創造的な心の働きがあるのです”
- “モノの先にある可能性を捉えようとする人々の工夫に資源化の奥義があるのです“

“地方が持つ大いなる「可能性」を开花させる” 安倍首相

“すべての女性が活躍できる社会を創る” 安倍首相

各地域における**人的資源の開花**:積極的で具体的な施策を通じての**「異端者」への包容力の促進**

- 在日外国人、外国人労働者
- 学歴軌道から外れた若者
学歴軌道に乗り過ぎた若者(Ph.Ds)
- 社会でさらに活躍したい高齢者
- 障害者の人々
- 女性

全員が社会革新の主役へ

-
- ・米国: R. Florida and G. Gates (2001) “Technology and Tolerance”
ハイテク都市の成長を最も的確に言い当てる社会指標は？

答: **ゲイ、ボヘミアン、外国生まれ**

人口減少・高齢化のもとで「地域」の活力を維持・促進には

→ 「賢い集約」と連携/ネットワーク化による新たな都市・地域システムの持続的な再構築

- 日本全体の国土レベル
- 「道州制」で前提とされる広域経済圏レベル
- 県レベル、基礎自治体レベル

集積・高密度化

生産性の向上 コストの上昇
(個別活動単位と地域全体)

「規模の経済」と多様性の効果
のもとでの賢い集約(特に公共財・公的施設)

立地点の集中による
効率化

分散による
アクセス向上と空間
の最大限の活用

→ 階層構造を持つ、全体として効率的な、都市・地域システムの再構築

人口減少と高齢化のもとにおける地域活性化の事例

1. 徳島県上勝町:

高齢者を中心とする『いんどり事業』等による町の活性化

2. 島根県隠岐諸島の海士町:

- 「超過疎化、超高齢化、超財政悪化」の離島が、ハンディキャップを克服して地域活性化に挑戦
- 地域資源を活用しつつ新商品開発・観光振興流通改革を通じて、島ごとブランド化
- 高校生の4割強が島外からの「留学生」

3. 北九州市:

かつての公害都市で高齢化率の高いまちが、環境産業を中心として生まれ変わりつつある

4. 北陸圏(富山・福井・石川県)の自立的発展

『いろいろ』 事業と上勝町

- 1986年、農協の**横石氏**(当時27歳)と4人の主婦が活動開始
 - 参加者(農家の人々)約150人、**平均年齢67歳(女性が大部分)**
最年長者94歳
 - 参加者1人当たり平均**年収170万円**
-
- 人口2,092人(Uターン、Iターン: 6.3%)
 - 5つの第3セクター(**いろいろ**、上勝バイオ、もくさん、ウィンズ、かみかつ いっきゅう)
 - **高齢化率 47%(徳島県内1位)** 寝たきりの方2人
 - **1人当たり年間医療費(国民健康保険)26万円**
(参考:同県内の一宇村、高齢化率45%、1人当たり医療費46万円)